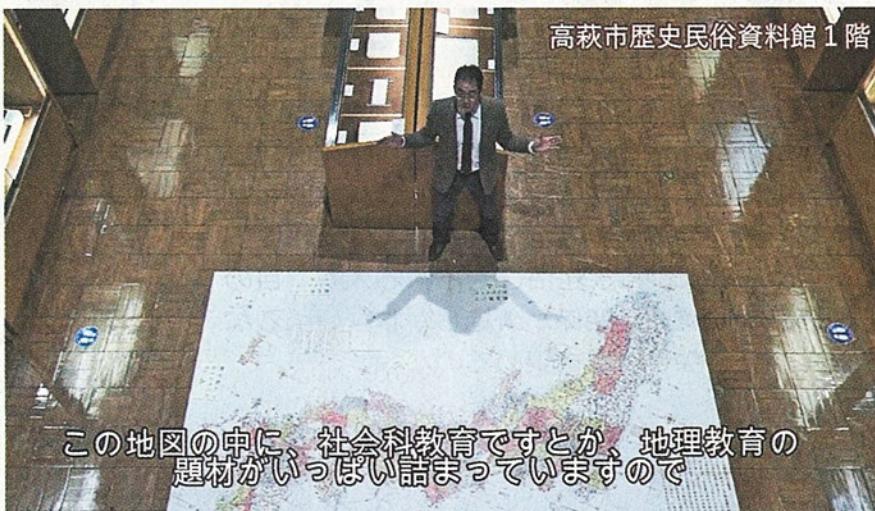


地理教育へ赤水の動画



赤水図を活用した地理教育について説明する日本地図学会常任委員長のト部勝彦教授（長久保赤水顕彰会と同学会が共同で作成した動画から）

で開催し、各機関が動画を配信している。26日まで赤水は日本

地理空間情報に関する最先端技術を紹介するオンラインイベント内で、高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）の半生や業績が、動画とともに紹介されている。2022年4月から高校で「地理総合」が必修となることを踏まえ、赤水が作成した地図が生徒の地理教育に役立つといった観点でまとめられている。

イベント「G空間エキスポ」付けられた「G空間（地理空間）情報」への理解を深める

ことを狙いに、産学官による協議会が開催。新型コロナウイルスの影響で昨年からオンライン

で初めて経緯線のある全国地図（赤水図）を完成させた。イベントホームページでは赤水の功績とともに、地理教育への活用法を伝える動画へのリンク、見どころのコメントを掲載している。

学問や地図作成に対する赤水の情熱を、時代劇を通して伝える同市製作の映像作品のほか、赤水図を地理教育へ実用的に活用する方法について日本地図学会と長久保赤水顕彰会が共同で作った動画などを3本を掲示した。

両会と同市教育委員会は、赤水図を5倍に拡大した地図を地理教育に活用することを提言している。同顕彰会はプログラムには、拡大した江戸時代の地図に生徒が触れて現代地図と比較し、発見をするといった体験的な地理教育へのヒントが込められている」としている。（小原瑛平）

半生や業績、3本配信

産学官協議会イベント